

October 14, 1995

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 フェロウシップ・レター (1)

さる 10 月 14 日午後 2 時より、新年度(1996 年度)のディケンズ・フェロウシップの総会が東京女子大学牟礼キャンパスにて開かれました

0.1 総会

小池滋支部長より、鉄道記念日というすこぶるつきのよいお日柄の午後にご参集いただき有難うございますとのご挨拶の辞につづき、支部長みずからの司会により、総会に先だって行われた理事会で話し合われた原案にそって議事が進められました。議事の内容は以下の通りです。

a) 今年度の大会の予定

今年度の春季大会は、1996 年 6 月 8 日に名古屋大学情報文化学部で同大学の松岡光治氏のお世話により開催される予定です。プログラムは未定です。また、秋季大会については日時・場所・プログラムとも未定です。何かご提案のある方は御連絡ください。

b) 会報について

会報の記事を募集いたします。振るってご投稿ください。また、住所などの変更、あるいは名簿の記載ミスについても御連絡ください。今年度からの新機軸として、原稿のタイトルは英語でも記すこととなります。(そのようになった経緯は以下に説明致します)。

c) *DICKENSIAN* の配布について前回のレターでも説明しましたが、1994 年度の WINTER 号が一部(40 部)未着のために発送できなかった件は、その未着の分の一部(10 部)が到着したためかろうじて発送が可能となりました。またこれと前後するように 1995 年度の SPRING 号が到着しましたので、両年度の会費を支払われた方には過日 2 冊同時に発送致しました。(会費納入がいずれかの年度の場合は、その年度の分の 1 冊のみ)。該当年度の分の会費を払ったのに「ディケンジアン」が届かない!! という方はお知らせください。調査致します。1995 年度分に関しては 20 部ほど余裕がありますから、今からでも会費をお支払いいただければ、送付可能です。結局、今回の事故に関しては郵便局のミスなのか、本部のミスなのか、判明致しませんでした。

d) 会計監査について(同封報告書参照)

会計担当の山本史郎氏より 1995 年度の収支についての説明が行われ、監事よりこの報告を諒とする旨が報告されました。フェロウシップの財政状態に関して注目すべき点として、「来年度への繰越金」が昨年度よりも 30 万円ほど増えている事実があります。しかしその大部分は定常的な収入としては期待できない「特別維持費」(寄付)によるものなので、会費を下げる理由とはならない。さらに、このような黒字要因を除けば収支がほぼ均衡している状態なので、会費値上げの必要もなく、来年度は従来通りの年会費 6,000 円を維持すべきことが決定されました。

e) 新理事について

過去 2 年間にわたり、太田良子さんと協力して会計を担当している事実に鑑みて、山本史郎氏をあらたに理事に加えるべきことが提案され、皆様の賛同を得ました。

f) 渉外関係について

松村昌家副支部長が昨年度はエディンバラ、今年度はノッティンガムにて行われたディケンズ・フェロウシップの本部の大会(いずれも 7 月 26 日ごろより一週間)に参加されたので、それについて報告されました。とくに、会員数の多い日本支部の活動にたいして諸外国の代表の関心が集まっているが、言葉の壁もあり、うまく伝わっていないのが現状である。せめて、毎年本部にも送っている会報の記事のタイトルだけでも英語に直したい。また、来年も 7/26 日ごろより同大会がポーツマスで開かれ、マイケル・スレーター氏による講演が予定され、また楽しい Excursion なども催されるとのこと、来年の夏にイギリスにいらっしゃる予定の方は是非参加をご検討されたらどうでしょうか?との松村氏の結論でした。

0.2 総会プログラム

a) 前半

第一部は小池支部長の司会により、駒沢大学講師の佐藤真二氏が、朗読台本の“Doctor Marigold”を基にしながら朗読者としてのディケンズについて独自の考えを発表されました。1) 朗読という特殊な手段によって聴衆の想像力を刺激することで人間性を回復させる、2) 直接語りかけることによって、人と人とのつながりを回復することが可能になる、といったような趣旨であったかと思えます。司会者によると佐藤氏はみずから“Doctor Marigold”を翻訳し、かつ朗読を実演されたとのこと、発表の中で引用文を読まれるさいの朗々たる低音に魅せられた者としてはその朗読たるやいかならんと思われ、是非次なる機会に披露していただきたく感じられた次第でした。

b) 後半

第二部は西條隆雄氏の司会により、広島大学の植木研介氏が「ディケンズと *The Daily News*」という題名で講演されました。1846年1月21日から同年2月9日にかけての極めて短い間、ディケンズは *The Daily News* という新聞の編集長を勤めたことがあります。ジャーナリストとしての素質も野心もあったディケンズがなぜこのように短期間勤めただけで、編集長の席を辞したか？これが植木氏の疑問です。これに関しては古来諸説紛々ですが植木氏は、*The Daily News* はもちろんのこと、*The Times* などの一次資料を徹底的に調査され、当時の政治的状況などを調べた上で、鉄道王ハドソン対ディケンズという隠れた対立図式をあぶり出され、ディケンズの早々の辞任は、ハドソンへの三下り半であったという新説を打ち出されました。熱意溢れる話ぶり、着実な実証の過程に、聴衆全てが興奮のうずに巻き込まれた3時間でした。

0.3 懇親会

熱のこもった研究発表、講演のあとは、吉祥寺の「摩天楼」に場所を移し、東京女子大学の山本学長らをお迎えして、懇親会がなごやかな雰囲気の中で行われました。

0.4 会報

「会報 18号」を同封します。

0.5 会費納入のお願い

フェロウシップの会計年度は10月に始まります。本部で発行される雑誌 *Dickensian* は、会費を納入された方の数の部数分を一括して注文・送金しますので、会費の納入が遅れて本部送金後に届いた場合には、雑誌をお受け取りになれないという事態も生じかねません。同封の振替用紙で、お早めに送金されるようお願い申し上げます。繰り返しますが、会費は6,000円です。お間違えないように。なお振替用紙は全員にお送りしています。すでにお支払いが済んでいる方はご容赦ください。

ではまたお目にかかれる日を楽しみに！